

半導体に転機、データセンターに注目

野村アセットマネジメント 福田泰之チーフ・ポートフォリオマネージャー



半導体関連銘柄がけん引する相場は転換点を迎えたとみている。比較的早い段階で対話型AI「Chat（チャット）GPT」をきっかけとした人工知能（AI）や半導体ブームに気付

きリターンを得ることができた。ただ、株価の割高さが強まるにつれて、投資対象としての魅力は相対的に薄れてきたと感じる。

2024年春以降から半導体製造装置関連の利益確定を進めてきたため、8月の調整局面で影響を抑えることができた。

年明けからデータセンター関連銘柄への投資を増やしている。データセンター同士をつなぐ通信ネットワークや大量の電力需要は今後拡大する見込みで、AIや半導体に並ぶ大相場

になる可能性もありそうだ。

投資開始時の魅力が変わらない限り保有を続けるのが基本スタンスだ。原体験となったのが、13年頃に投資し株価が約50倍に成長したガンホー・オンライン・エンターテイメント（3765）だ。当時は急騰への警戒も広がっていた中、社長への取材を重ね成長ストーリーへの確信を得て保有し続けられた経験は今につながる。

米国にあるような超大型のプラットフォームは日本には存在しない。一方で、電子部品や

半導体製造装置など技術を生かしてシステムの構築に貢献する「イネーブラー」と呼ばれる国際競争力の高い企業は多い。景気や製品のサイクルの波も見極めながら、機動力を生かして投資していきたい。

「情報エレクトロニクスファンド」は1984年の設定から40年がたつ。長い歴史をもちながら資金流入が続いているファンドは多くはない。国内で多くの投信が乱立するなかで、運用の世界に一石を投じる存在でありたいと思う。

「情報エレクトロニクスファンド」の組み入れ上位(8月末時点)

銘柄名	組み入れ比率
日立(6501)	7.9%
ソフトバンクG(9984)	6.5
NTT(9432)	6.3
フジクラ(5803)	6.3
リクルートHD(6098)	6.2
富士通(6702)	5.6
村田製(6981)	5.2
日電硝(5214)	5.0
古河電(5801)	3.9
任天堂(7974)	3.8